

## 地域活性化人材育成事業（SPARC）：採択事業の紹介



山梨大学 理事（地域人材養成担当）・副学長 風間 ふたば



## 知（地）のソーシャルキャピタル ～学びの山梨モデル～構築事業

事業責任大学：山梨大学

事業協働機関：【参加校】山梨県立大学

【地方公共団体】山梨県

【企業・経済団体】（公財）やまなし産業支援機構

（公社）やまなし観光推進機構

専修学校山梨予備校

【金融機関】山梨中央銀行

# 山梨県の現状

	面積 ランキング	人口 (2022) ランキング*	人口増減率(%) (2022)-(2020) ランキング*	高齢化率(%)** 2021・2045 (増加ポイント)	GDP (2022) ランキング (億円) ***
山梨県	32	41	12 (-1.03)	31.3・43.0 (11.7)	42 (35,660)
長野県	4	16	19 (-1.34)	32.3・41.7 (9.4)	18 (84,543)
山口県	23	27	39 (-2.16)	35.0・39.7 (4.7)	25 (63,505)
岐阜県	7	17	30 (-1.68)	30.8・38.7 (7.9)	21 (79,368)
熊本県	15	23	15 (-1.18)	31.9・37.1 (5.2)	24 (63,634)
宮崎県	14	35	29 (-1.66)	33.1・40.8 (6.9)	39 (37,040)
石川県	35	33	17 (-1.29)	30.1・37.2 (7.1)	31 (47,795)
			1位沖縄県 0.08	1位秋田県 38.1	1位東京都 (1,156,824)

\*<http://punb.jp/rnk/p.j.html>

\*\*内閣府

\*\*\*<https://elemenist.com/article/2418>

# 山梨県の近未来：リニア開通

暮らしの変化を映像で見てみる

**リニア中央新幹線と日本の未来**

リニア中央新幹線が私たちの生活や日本にどのような変化をもたらすのか、さまざまな映像でご紹介します。



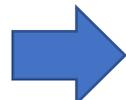
想像できる未来を、超えよう。

リニア中央新幹線

criptvoid(0);



## 2027年以降とされるリニア開通

- 
- 交通アクセスの飛躍的向上
  - 迫られる県内産業構造の転換
- 



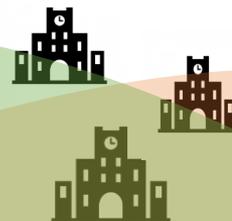
地域産業の「国内外」への展開に挑む人材  
基盤産業の“現場”変革人材・アントレプレナー

“高付加価値化”を強みに「県内」に人を呼び込む人材  
豊かさを実感できる社会の牽引者・コーディネーター  
新たな価値創造・多様性ある共生社会



教育学部  
医学部  
工学部  
生命環境学部

(R4.5.1)  
全学生数 4,666人  
教員数 846人  
職員数 1,343人

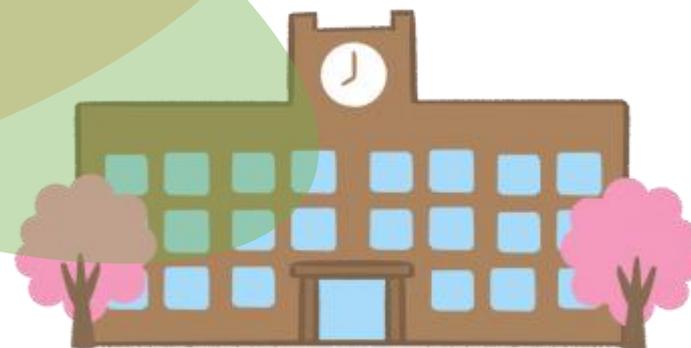
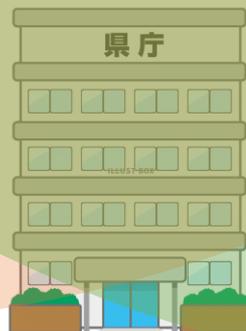


(R4.5.1)  
全学生数 1,139人  
教員数 102人  
職員数 49人

国際政策学部  
人間福祉学部  
看護学部

大学院

大学院



平成26年度～ COC 事業  
平成27年度～ COC+事業

平成25年度～ COC事業  
令和2年度～ COC +R事業



令和元年 一般社団法人「アライアンスやまなし」  
令和3年 大学等連携推進法人 認定

令和4年度 SPARC事業申請・採択

# ○ 地方創生人材教育プログラム構築事業（COC+R） 【責任大学：県立大】

## ① 5つの教育プログラムによる実践知教育

- 県立大、山梨大、山梨英和大学と産業界等が協働し、「VUCA時代の成長戦略を支える実践的教育プログラム」を実施 ⇒ 通称：**PENTAS YAMANASHI**
- **観光・地域づくり・ビジネス構想力・多文化共生・アントレプレナーシップ**に関する5つのプログラムを構築し、令和4年度には**正課内に**開設  
⇒ 45科目を**連携開設科目として山梨大に提供**



観光

▲地域資源ワインに関する実践授業



ビジネス

▲起業家による講義を聞く大学生・社会人受講者



多文化

▲演劇創作を通じて自己と他者の理解を深める授業



アントレ

▲事業アイデアを共創する高校生・大学生・社会人

## ② PENTAS科目（地域学、アントレ教育、リカレント、AP制度を内包）

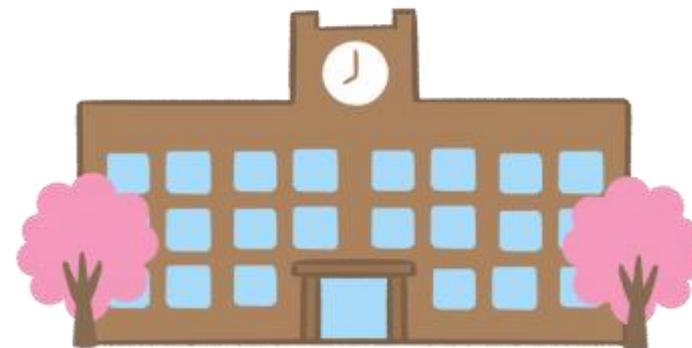
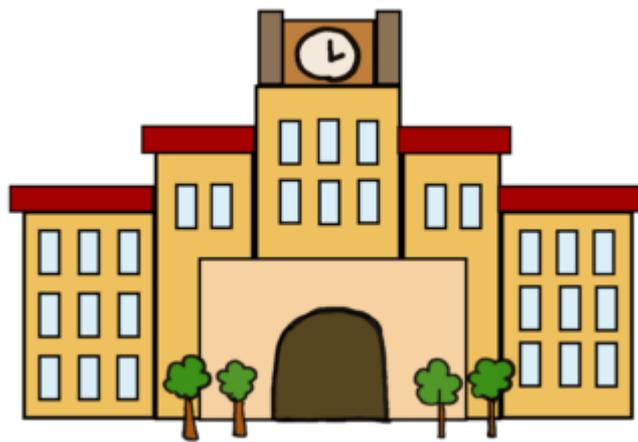
- 自然、歴史文化財などの地域資源を扱う授業、地域で活躍する人材による講義やものづくり企業における現場研修など、学生が**“地域を学ぶ機会”**を強化
- **アントレ教育をプログラム化**し、マインドセットから事業プラン作成まで体系的に4科目を配置
- **社会人(47科目)や高校生(22科目)にも開放**し、多様な年齢層・ニーズに応じた学びの場を形成

# 事業の共通目標

不確実性の高い社会においても、臆することなく世界へ挑戦し続ける力と意欲を持った人材ならびに地域社会の育成を目指す

- ① 連携開設科目を活用した**教養教育課程の充実と効率化**
- ② **教養教育課程におけるSTEAM教育**の全学的な推進
- ③ 地域リーダー及び産業中核人材としてのスキルセットに関わる**実践知教育プログラム**の実施
- ④ **リカレント教育の推進**と共助型の学修コミュニティの構築
- ⑤ 課題意識・目的意識の高い入学者の確保に向けた**高大接続の確立**
- ⑥ **地域人材養成センターの一体的運営**による**垂直統合型人材支援体制**の整備

# ○ 大学連携で進める効率的な教養教育改革



(工学・健康科学分野)  
DX・データサイエンス  
STEAM科目

連携開設科目の講義科目割合：85%以上  
教養教育課程の効率化：総教養教育科目数の30%削減



(人文・社会科学分野)  
地域学・課題解決科目  
アントレプレナーシップ科目

## ○ 山梨県立大学で行う教育プログラムの構想

実践知教育に根差した現場変革者・価値創造人材の育成

国際政策学部(80名)

ものづくりを主眼とした文理融合教育の導入

【新設】 地域デザインコース(20名)

- 山梨県の**主要産業「ものづくり」**の学び  
(ジュエリー、果樹、農林業、機械電子等)
- データサイエンス、DX、デザイン、エンジニアリングなど**価値創造スキル**

⇒ **地域産業の現場を変革**する人材を育成

科目例: **農業DX**、山梨の**伝統産業**、**プログラミング**  
**AI概論**、**デジタルファブリケーション**

人間福祉学部(80名)

看護学部(100名)

学部の垣根を超えたプログラムの協働運営

【新設】 ヒューマンサービスを変革するDX人材育成プログラム(20名)

- 既設教育で学ぶ**ヒューマンリテラシー**
- **デジタル技術の活用や現場観察**のスキル  
 ⇒ 一人一人が多様な幸せを実現できる社会に向けて、**福祉・医療等の現場を変革する人材**を育成

科目例: 福祉看護の**DX**、**エスノグラフィー**  
 ヒューマンサービスの現場変革、  
 Development Goalsとアクティビティ

山梨大学の理系教育のリソースを最大限活用

# ○ 山梨大学で行う教育プログラムの構想

## 3つの文理横断型の特別教育プログラム

○ 他学部・他学科の科目も活用

データサイエンス入門、DX基礎・DX応用・演習科目(課題解決PBL)フューチャーサーチ(地域連携PBL)・・・etc.

生命環境学部  
(環境科学科)  
環境科学の社会実践  
特別教育プログラム



生命環境学部  
(地域社会システム学科)  
地域課題解決実践  
特別教育プログラム



工学部  
(工学科)  
工学の社会実践  
特別教育プログラム

## ② 社会の複雑さを認識する力

広い視野と柔らかな発想で“地域理解”

山梨、ウェルビーイング、共同体、  
経済、地(知)産地(知)消、GX

## ① 課題解決に取り組む力

卒論=究極の“PBL”を課程全体に

テーマ別演習、デザイン、卒論

技術と社会を橋渡しする  
“おもしろい”に挑戦

## ③ 自由に思考し続ける力

卒業後も生きる“リベラルアーツ”

哲学、表現、情報、地域

## ④ 実業・起業する力

県立大との連携で加速

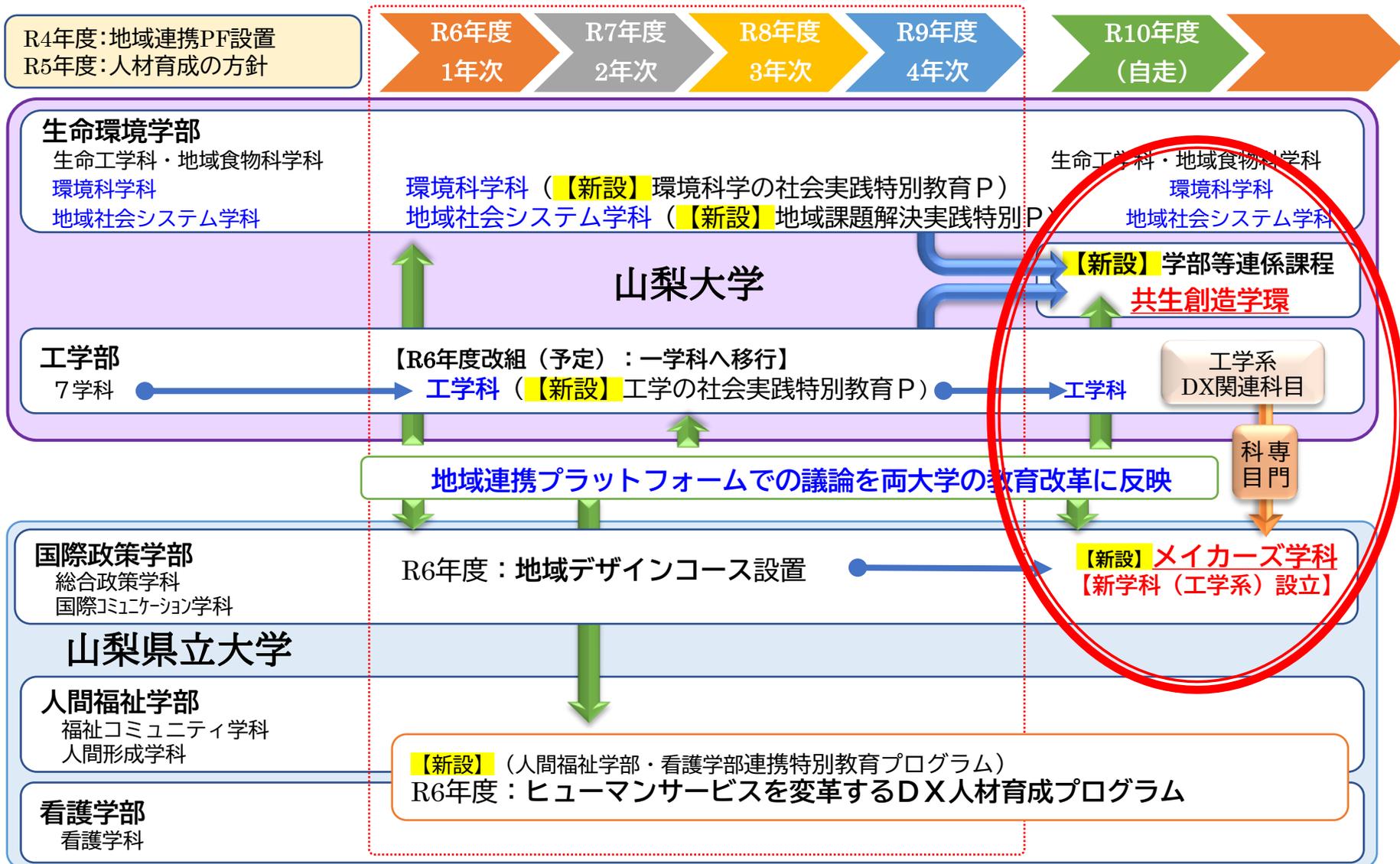
地場産業、経営、観光、新技術

“知的愉しみ・おもしろさ”を享受して、自分を変え、大学を変え、地域を変える動機を育む



“当事者”として社会に向き合う

# ○ 両大学で進める実践知教育プログラム



【注】教育プログラム、コース、学科、課程等の名称は全て仮称(以下同様)

# ○山梨県立大学で想定する学科再編の構想

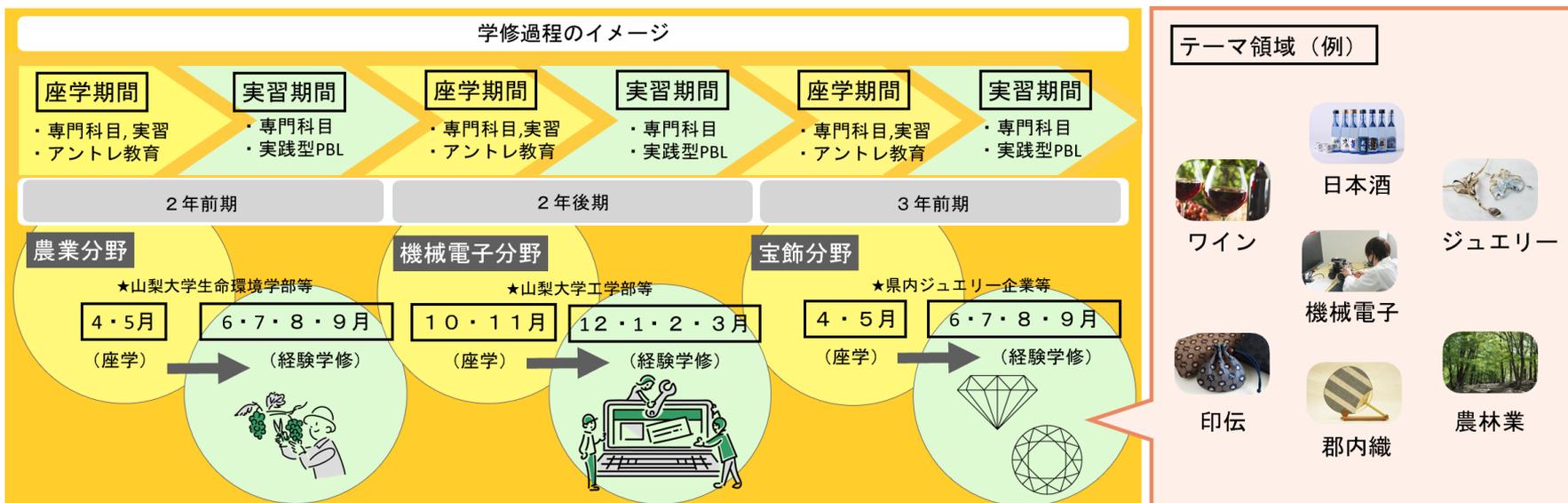
## 1 工学系新学科の設立

- 今後、AIやIoT等の技術革新により産業構造が大きく変化する中で、「価値創造」力を育む教育を強化する必要
- 地域に根差した実践知教育を更に進展させるべく、地域連携プラットフォームでの議論を踏まえて、デジタル技術によりイノベーションをもたらす「メイカーズ学科」を設立

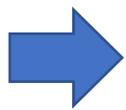
## 2 「メイカーズ学科」の特色

- 3Dプリンター、3Dデザイン、UXデザインなど **EngineeringとArtを主眼とした創造的なSTEAM教育**
- 機械電子、農林業、ジュエリー、ワイン、伝統工芸など主要な **ものづくり現場での多様な経験学修**
- 地域連携プラットフォームとの連携による **地域全体を学びの場とする教育**

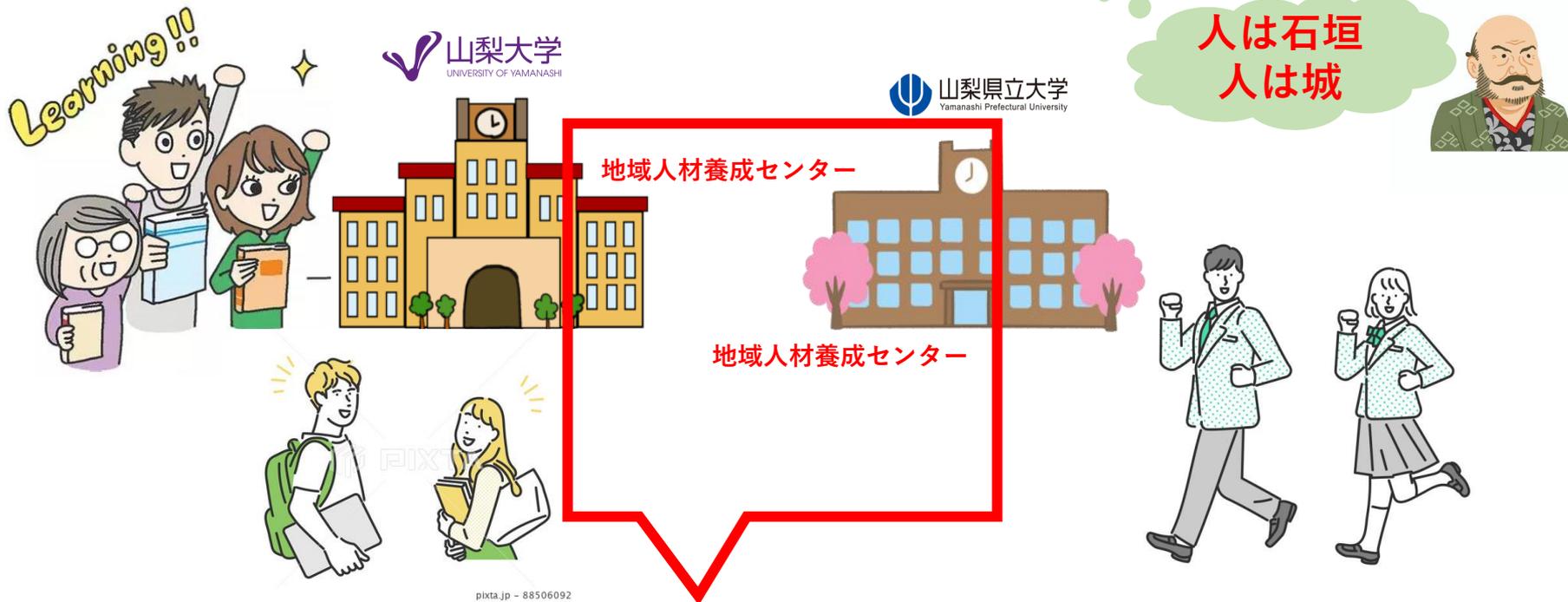
⇒ **地域産業における価値創造人材の育成**



# 2027年以降とされるリニア開通



- 交通アクセスの飛躍的向上
- 県内基盤産業の現場変革・より暮らしやすい地域への転換



学部教育にとどまらず、高大接続、リカレント教育の充実などを通じ  
学びを地域内で波及させ、地域の誰もが学びを通じたアップデートを  
実感出来る知(地)のソーシャルキャピタルを構築する。

## 地域連携プラットフォーム（地域人材養成推進会議）との関係

### ① 地域人材養成推進会議での議論や得られた知見を教育に関する取組へ反映

- R6年度からの実施を検討しているSPARC事業の特別教育プログラムや、各大学の教育事業などに地域連携プラットフォームでの議論等を反映することで、地域に必要とされる人材を養成し、社会へ輩出する。

### ② SPARC等の取組や対応状況などを地域人材養成会議とも共有

- 地域連携プラットフォームが地域社会と大学との“恒常的な議論の場”であることから、各大学でのSPARCの取組状況などを報告するとともに、地域社会からの意見を踏まえ、事業計画等をブラッシュアップを行う。

### ③ SPARCの実施状況等に関する評価

- SPARCでは“地域が真に求める人材を育成する機関”への展開が求められているため、両大学の取組（事業成果）に対する検証・評価をお願いしたい。

